國學圖書館藏

小說

馬鹿一萬歲

●

武者小路實篤著

河出新書

馬鹿一萬歳　　河出新書

昭和30年1月31日　第1刷發行　　¥ 100

著　者　武者小路實篤（むしやこうぢさねあつ）

東京都千代田區神田小川町3—8
發行者　河出孝雄

東京都文京區柳町26
印刷者　山元正宜

發行所　東京都千代田區神田小川町3—8　株式會社　河出書房

三晃印刷

落丁本・亂丁本はお取替いたします

小說

馬鹿一萬歲

●

武者小路實篤著

河出新書

著者略歴

明治十八年五月十二日東京麹町元園町に生る。同二十四年學習院初等科入學。在學中禪學・陽明學に接し、聖書を讀み、トルストイに傾倒した。三十九年東京帝大文科社會科に入學、四十年中退、同四十一年處女作「芳子」發表。四十三年同志と「白樺」發行、大正十二年廢刊するまで同派の中心作家であつた。「お目出たき人」(四十四年)以後小説・戯曲の作多く、戯曲「その妹」(大正四年)を發表する頃には文壇に獨自の地位を占めた。大正七年、その理想主義の實際運動として日向に「新しき村」を建設、個人雜誌も發行して青年層に大きな感化をおよぼした。その後も小説・戯曲・感想・評論・詩・書論にゆるまない筆を振ひ、代表作長篇「幸福者」、戯曲「愛慾」その他多數の名作を發表、文壇の耆宿として今日に至る。昭和十二年に帝國藝術院會員になり、昭和二十七年に文化勲章を受けた。三鷹市名譽市民。

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

自序

この本に集められたものは僕の山谷五兵衛ものの第三集になるわけと思ふ。山谷五兵衛もの、僕はさんやごへいものと自分では言つてゐる、之は僕が何かかくのをたのまれて〆切日が來てもいよいよかけない時に出す、傳家の寶刀のやうなもので、之を出すと、ともかく何かかけるのである。なぜかけるかは知らない。つまり机に向つてかき出す時に、山谷をもつて來て何か饒舌らせると、ともかく何かかけるのである。漫畫家が、自分の得意の人物を出して漫畫をかくやうなのと共通があるのではないかと思ふ。馬鹿一のことなどは二度とかくまいと一方思つてゐるのだが、いよいよかく事がないと、馬鹿一をつれてくると、何かかけるので、つい又馬鹿一をやとつてくるのである。その作品のよしあしは他人に任せるが、自分では一番かきいゝ事をかくので、かくのは樂しいわけだ。よみ返して

もたのしい時がわりにある。

自分で天下の名文だなぞと一人で考へ、こんな名文は他の人にはかけまい、第一之を名文だと思ふ人はあるまいと、私かに考へて笑に入る時もあるのだから、僕も少し燒が廻つたのかと思ふ。どうも山谷五兵衞物に雇はれてもいゝ人間に自分がなりつゝあるやうだ。

昭和二十九年十二月二十八日

古稀　武者小路實篤

二伸

例によつて中川孝と、河出の坂本君にいろいろお世話になつてこの本は出來たのである。感謝していゝだけの本になるのだと思つてゐる。

目

次

自序

馬鹿一萬歳……一一
暴君と書家……二七
泰山の怒……四一
白雲の病氣……五三
すべては過ぎ行く……七一
馬鹿一と病後の白雲……八九

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

進化論者……一〇七
ある農家で……一一九
二疋の鼠……一三一
二人の畫家の死……一四三
空想先生の話……一六三
二人の友達……一七七
死人に口あり……一九五
解題……二〇五

馬鹿一萬歳

一

山谷五兵衛勢ひよく飛び込んで來て、

「馬鹿一は矢張り偉いですね。馬鹿一萬歳を叫びたくなつて、先生の處に來たのです」

「こなひだ來た時は、馬鹿一に愛想をつかして居たぢやないか」

「あんまり意氣地なしだつたので、だが又起き上りました。立派に起き上りました。そして今日行つたら、今迄以上に本當の石がかけてゐました。今度の畫こそ、名畫と言つてもいゝと思ひましたよ」

「それが本當なら萬歳だが、君は誇張の名人だからね」

「僕には今度の畫こそ嘘いつはりなく、誇張なしに名畫だと思ひますよ。尤も他の人が見たらなんと言ふかわかりませんが、僕にはさうとしか思へないのです。そして石かきさん

の頭から後光がさしてゐるやうに見えました」

「相變らず大げさだね」

山谷五兵衛嬉しさうに笑つた。

二

何しろ今度は本當に參つてゐましたからね。このまゝこの世から消えてゆくのではないかと思ひましたからね。馬鹿につける藥はないと愛想をつかしてゐたのです。參るのは尤もですが、いゝ齡していくら愛する女に逃げられたと言つて、あゝへこたれなくつたつていゝと思ひましたからね。

實際先生に見せたかつたですよ。珍妙な顏の老人が、失戀してへこたれてゐる顏なんて見て居られない有樣でした。同情したくつて行くのですが、あの顏を見たら、どやしつけたくなりますよ。さもなければ、

「くたばつてしまへ」と本當に言ひたくなりましたね。あんまりはがゆくつて、それにし

てもあの女は正態をあらはした、あらはし方は見事でした。殘酷以上で、人のよすぎる馬鹿一に對してよくもあんな態度をとれたものです。しかしあすこまでゆかないでは、馬鹿一の目がさめなかつたのでせうから、女のとつた方法も、或はやむを得ないのかも知れません。女に逢へば、きつと馬鹿一の方が惡かつた、馬鹿一さんの非常識には困つたと言ふかも知れません。

僕の言ふことが主觀的すぎてちつともわからないとおつしやるのですか。

それなら出來るだけ、わかり易く話して見ませう、決して話に誇張はないつもりです。

三

馬鹿一さんの處に女の人があらはれ、細君のやうにふるまつてゐるお話はしましたね。

僕がある日馬鹿一さんの處にゆくと、美しい中年の女の人が出て「どなたさまですか」と聞かれて僕が驚いた話をね。

そしてその女が馬鹿一の經濟の切りもりを一切やつてゐることを、そしてその女には立

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com